

佐伯市制施行四十周年記念式典

における受賞について

高木嘉吉

(佐伯史談会長)

標記の式典が去る四月二十八日午前十時より、佐伯文化会館大ホールで挙行された。この時市政の進展に功労のあつた個人五十五、団体一が表彰された。

この唯一の団体が、わが佐伯史談会である。表彰状には次のように記されている。

表彰状

佐伯史談会 殿

貴会は多年にわたり、郷土文化の発展に尽力されたばかりでなく、文化財保護に寄与した功績は大なるものがあります。よつて市制施行四十周年にあたり、その功績を讃え、これを表彰します。

昭和五十六年四月二十八日

佐伯市長 大鶴文雄

佐伯市の文化を象徴する文化会館大ホールに、関係市民七百余名参集し、平松大分県知事、村上衆議院議員、首藤県会議長他多数の来賓を迎えた晴れの場で表彰されたことは、まことに

感慨深いものがあつた。

郷土文化の発展や文化財の保護は、われわれの活動の一端として常に心掛けていくことである。幸に多数の会員が、この事について深い関心を持ち、研究と実践に努めていることは意を強くするところで、この会員の活動が今回の受賞をもたらしたものと、深く敬意と謝意を表する次第である。

史談会が多数の会員を擁して発展の一路をたどっていることは、同慶の次第であるが、今回の受賞を機として謙虚に反省し、一層の躍進を期したい。

『中庸』の伝の二章に「湯の盤の銘に曰く、苟に日に新たに、日に新たに、又た日に新たなり。」の一句がある。湯は商の湯王、盤は洗面用のたらいであつて、句の意味は大体次のようである。

商の湯王の手水の盤たらいの銘辞に、誠に日に新たにして、その身体みの垢を除き去る如く、その心も洗い清めて、旧来の悪習を除き、自ら新たにし、一度のみならず日々に之を新たにし、なおも又日に新たにせねばならぬ。

このように日新の語を三度繰り返して、丁寧親切に少しも油断すべからざる意を洗面の器に彫りつけて毎日の自誠じじかの句としてゐる。我々も今回の受賞を機に、一層清新の気をもって、史談会活動を続け、その一環として社会奉仕にも努めたいと念ずるものである。